



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第20回 十日町地区



住民の憩いの場となっている「めがね堰」。昭和62年から活動する鯉を愛する会が、放流と清掃を続けている。

十日町に市が立っていたことが名前の由来とされる十日町。町で2番目に人口の多い地区であり、現在は約150世帯、430名程が暮らしています。

かつては、羽州街道の宿場町として、江戸時代の参勤交代の折には、大名行列の一行が宿泊していたとされます。明治時代には地区の豪商たちが、石屋根で切妻型の街並みを連ね、その光景は当時から金山の名物とされており、現在の街並み（景観）づくり100年運動の原点ともいえるものです。ほかにも、八幡神社や豊かな水量の堰など、金山らしい景観が地区の誇りです。

「商業の町としても発展してきた十日町。しかし、町の活気を支えてきた商店の廃業が、近年目立つ」と、岸欣一区長は嘆きます。「大きな変化は他にもある」と続けます。ひとつは、ボランティアグループ（柴田純一代表）の発足です。所属する38名の有志が、廃品回収等で得た収益で高齢者宅へ手づくり弁当を年2回届けています。

さらに、東日本大震災を教訓に、災害の被害を未然に防ぐと、平成24年に自主防災組織を立ち上げました。昨年には町内組織として初めて防災訓練を行い、約90名が参加されたといいます。「できることは自分たちです」という自助の意識が高いのかもしれない」と区長は誇りに話します。

多くの方が訪れ、町の玄関口のひとつである十日町。区長は「民間主導で始まったまちづくり事業にも期待。交流人口が増えて魅力を知ってもらえれば、活気も戻るはず」と力を込めます。誇り高い十日町を自分たちの手で次代に繋ぐため、住民の皆さんは奔走中です。

金山町の人口は、5,426人（9月末現在）

男性	2,642人（-5）
女性	2,784人（-8）
世帯数	1,759世帯

▼9月の異動

出生	3人
死亡	9人
転入	5人
転出	12人

編集 幸記

▼金山産ビーナツツは召し上がりましたか？これ、すごく美味しいですよ。素材の甘さが口の中に残ります。まだ生産が少量で若干高めですが、一食の価値あり！売り切れ前にぜひお試しください。

▼取材中、ほとんど市場にないという掘りたての生落花生もいただきましたが、これもまた美味。優しくジュシーで生栗を彷彿とさせる味です。例えば下手で申し訳ないですが、逆に興味がわいたという方はぜひ栽培してみてくださいませ！（しあ）